

# 彩の歳時記

平成二十三年(辛卯) 一月

田子の浦ゆ  
うち出でて見れば  
真白にぞ  
富士の高嶺に  
雪は降りける

山部赤人

田子の浦を通過して視界が開けたところまで出てみると、富士山の高いところには真っ白い雪が積もっていた。雪の富士山といえは初日の出、新春の光に一年の息災を祈願する為、多くの人々が訪れます。初日の出が尊ばれ、祈りの対象とされるのは、五穀豊穡をもたらす太陽を崇拝した古代民俗信仰の名残で自然を畏れ敬い、節目を重んじる日本人の心が、今も連綿と受け継がれてからでしょう。山部赤人【?~736】は『万葉集』を代表する歌人で、柿本人麻呂と並び「歌聖」とされました。

歌の舞台「田子の浦」は現在の静岡県富士市田子の浦よりも西にある由比町、蒲原町あたり。

## 一月の異称

睦月 正月 親類一同集まって睦びあう月

## 一月の暦

一日 元日 国民の祝日 「元旦」は「初日の出」のこと。「旦」の下線は地平線を意味し、日は地平線

から昇る太陽を表す。

正月の人集まりし落語かな

子規【1867~1902】

新年祝賀の儀、国事行為。総理大臣、知事等が天皇・皇族に新年の挨拶をする。

初詣 氏神様(地元)の神様、

その年の恵方(南)の神様に詣で一年に息災を祈願する。

二日 皇居一般参賀

第八十七回箱根駅伝(二日・三日) 昨年は東洋大学が優勝、さて、今年は何?

六日 小寒 「二十四節気」 芹栄う【七十二候】「寒の入り」、節分までを「寒の内」。寒さが一番厳しい頃。

出初め式 一六五九年に旗本率いる定火消(じょうひけし)が上野東照宮前で働きを誓ったのが始まり。

七日 人日の節句(七草の節句) 五節句(三月三日・五月五日・七月七日・九月九日)の一つ。

七草(芹・なずな・御形(ごぎょう)・はこべら・仏の座・すずな・すずしろ)を粥に、

いれて食べ、一年の息災を願う。地方により異なる。この日までが「松の内」



七草(芹・なずな・御形(ごぎょう)・はこべら・仏の座・すずな・すずしろ)を粥に、いれて食べ、一年の息災を願う。地方により異なる。この日までが「松の内」

「松の内」

八日 正月事納め 正月の各種行事・飾りを終える。

十日 成人の日「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」が趣旨。

十一日 鏡開き 元は武家の行事で具足(ぐそく)・鎧(よろい)・兜(かぶと)に備えた餅を食べたのが始まり。具足開きだった為「切る」は「切腹」に通じると手や木槌で「割り開く」ことからこのように呼ぶ。

十五日 小正月 七日までの松の内を「大正月」この日をこう呼ぶ。忙しかった主婦の労いから、女正月とも。

左儀長 どんと焼き 正月に使った門松や注連縄飾り、古いお札を燃やす行事。

十六日 歌会始 平安時代からの宮廷行事。一般公募者を召人(めしうど)と言ひ、天皇の御前で詠み上げる。今年のは「葉」

十七日 阪神淡路大震災の日 1995年のこの日、死者約3000人、30万人以上が被災。

多くのボランティアが活躍し「防災とボランティアの日」に。

二十日 大寒 「二十四節気」「寒の内」の真ん中にあたる。露(つゆ)のとう花咲く【七十二候】

## 一月の歌

冬景色

文部省唱歌 尋常小学唱歌 『第五学年用』

かつての日本の風景を描き「一番が水辺の朝、二番が田園の昼、三番が夕べの里」

と格調高い言葉で表わされています。人の一生に準え、一番は静かな朝が始まる幼年期、二番は鳥も人も花も元気に生きている青年期、三番で

嵐の後で日暮れて、眠りにつく休息の老年期を象徴しているようです。



一・さ霧消ゆる淡江の舟に白し朝の霜  
ただ水鳥の声はして  
いまだ覚めず岸の家  
二、鳥啼きて木に高く  
人は畑に表を踏む  
げに小春日のどけしや  
かえり咲の花も見ゆ  
三 嵐吹きて雲は落ち  
時雨降りて日は暮れぬ  
若し燈火の漏れ来ずは  
それと分かじ野辺の里